

■社会科 中2 チャット・サルート先生「カンボジアの歴史」

教科書に出ているカンボジアの地図のコピーをグループに1枚くばる。教科書を生徒に読ませ、カンボジアの時代の変遷について生徒に質問する。生徒が「フランス統治時代、アンコール王朝時代がある」と答える。ここから「アンコール王朝時代」について教える。

生徒に教科書を読ませる。
先生が黒板に班ごとの課題を書き、話し合いをさせる。
答え(教科書に書かれていること)を話し合う。
班代表の生徒が答えを黒板に書く。
生徒に写させる。
最後に宿題を出す。
「アンコールワット時代、どの王様がどこに都をつくりましたか？」宿題は教科書に出ている内容から選ぶ。

▼チャット・サルートの発表

アンコール王朝時代の事を教えた。国王の名と、業績について教えた。アンコール時代以後の国王の名と業績についても教えた。教科書以外に歴史の資料が無いので、いつも教科書中心の授業になってしまう。

▼授業を参観した先生の感想

□リンダ先生:多くの質問して生徒に答えさせる場を増やすと良い。生徒の配った地図と現在の地図の違いを考えさせると歴史の変遷が分かる。グループで話し合いが、1グループの人数が多く話し合いが出来ていない。

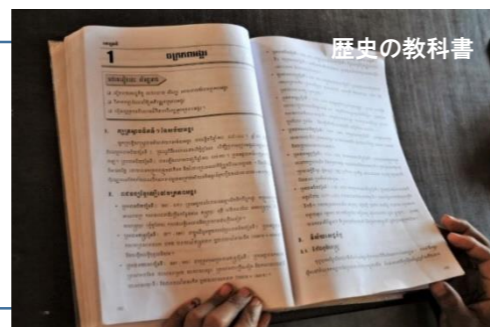
□サヴォーウン副校長:歴史の授業は教科書以外に資料がないので、教科書中心の授業になってしまうのは仕方がないと思う。

▼住田の感想

生徒に考えさせる授業をするために、学校のすぐ隣に遺跡があるのだから、そこを見学し、アンコールワットの写真などを見せて、このような遺跡を造った目的を考えさせるとよい。シェムリアップ州の中学だから、アンコールワットの見学にも行けるとよいのだが・・・将来的には授業に取り入れるとよい。

【教え方の難しいカンボジアの歴史】

カンボジアの歴史授業の難しさについて校長を交えて話し合う必要がある。歴史で教えてはいけないこと。例・ポルポト時代は教えていないし教科書にも載っていない。
また、歴史の教科書(写真)には絵も写真も載っていない。
歴史の絵図や資料はカンボジアでは売っていない。
インターネットの活用の仕方など工夫するとよい。



■スレイ・ビボケイ中学 全員の先生から要望がありました。

「私たちは、生徒によくわかる授業をします。手を抜いた授業はしません。私たちは全員「その日の授業で教えたことは、その授業の中で分からせるようにして努力しています。これからもSSFCに教えてもらった事を実践してもっとよい授業をします」と先生たちは熱く決意を語りました。

「今、ビボケイ中学から高校へ進学する生徒は少ないです。卒業生の3分の1くらいしかいません。その理由は、家庭が貧しいことと、高校が遠いことです。私たちがよくわかる授業をして学力を高めた生徒の大部分が中学で辞めてしまうことは残念で仕方ありません。ビボケイ中学の生徒は増えています。今の中学3年生は1組53人です。これ以上増えると教室が足りません。今朝見ていただいたようにトタンの1教室とヤシの葉の1教室を使っています。教科別の教室にもしたいです。そうすれば掲示物や教具も常設出来るからもっとよい授業が出来ます。5教室建てただけませんか、お願いいたします」。さらに、「ここに高校をつくりたいので州教育局に申請しています。SSFCも応援してください。」と、懇願されました。

この要望を受け、SSFCは、校舎建設支援の具体的検討を開始することにしました。

◇ご支援をお願いいたします。

教育環境を整え、貧しい子に教育の機会を提供し、先生に指導力の向上のお手伝いをしています。SSFCの活動へのご支援をお願いいたします。寄附金のお振込みは、右記からお願いいたします。

■三菱UFJ銀行 神保町支店
口座番号(普) 0968555
■ゆうちょ銀行 00110-2-767497
口座名: 公益社団法人 SSFカンボジア

詳しい解説・近況報告はSSFCホームページに掲載(ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>)しております。ぜひご覧ください。右のQRコードからもアクセスできます。お問い合わせは、TEL:03-6272-5717 FAX:03-3511-5019 E-mail:info@ssf.or.jp



ក្រុម によにゆむは、カンボジア語で「笑顔」という意味です。
によにゆむ通信
2019年1月号 No.13

公益社団法人
Sumita Scholarship Foundation, Cambodia
(SSFC) 代表理事 住田平吉
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-44
第二石坂ビル502
TEL:03-6272-5717 FAX:03-3511-5019
E-mail:info@ssf.or.jp
ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>

◆2019年1月31日 シェムリアップ州教育局訪問

サイ・チャ・スホン州教育長と同州バクコン郡ヴィッカ・アンシ教育長と面談しました。州教育長と郡教育長にSSFC協力校2校の成果報告と今年の研究課題について説明しました。

(1)ランサイ中学は「先生の指導力向上支援」の2期目となりました。

1期目に郡内の中学校の先生を対象として「授業発表会」をしたことで、先生全員の指導が上手になり、先生も教えることに自信を持ってきた。自分なりの授業パターンを身に付けた先生もいる。

「生徒によくわかる授業」の成果が出て、工夫した自作の教具を使って授業している先生が多い(教具をつくるためには、指導のための勉強をしなければいけない)。

2期目になる今年も「授業研究」を継続して行う。

今年は「生徒によくわかる授業の仕方4項目」を身に付けるために、単元の指導計画を含め指導案の書き方を勉強する。

教科書の内容を基にして指導をするが、教科書を読み・写して終るだけでなく、教材の工夫や学習の場を教室外にも広げると、成果が出ることを伝える。「生徒一人ひとりが自分で考え、自分の力で問題を解決する能力」を伸ばしたい。

(2)スレイ・ビボケイ中学で

「先生の指導力向上支援」を開始しました。

ビボケイ中学の先生は指導への意気込みが凄い。

「授業の仕方」は師範学校でも習っていないので、先生一人ひとりが「生徒によくわかる授業」をしたいという意欲がある。

「生徒の家では塾代は払えない、私たちが州都近くから通勤に1時間もかかるので、私たちの学校では塾をやっていない」とのことで、先生たちは、1時間の授業の中で生徒にわからせることを目指している。

授業では、どの先生も「生徒に話しかけ」、「黒板で説明」して授業をしている。自習させている先生はいない。これには私も驚いた。

※同様の報告を教育省と開発協議会にも行いました。

■SSFC住田代表理事から

サイ・チャ・スホン州教育長に「生徒の考える力を伸ばすことが、カンボジアでは必要だ。師範学校でも教えて欲しい、他の学校にもランサイ中学とビボケイ中学の授業を見させて欲しい。ぜひ州内の学校に広めたい。特に、ビボケイ中学のソクン・リンダ先生の英語の授業(詳しくは特集ページで解説してあります)を見て欲しい。英語の先生の模範になる授業だ。中学1年の授業で「1時間中、英語で話し教えている。」日本で先生をしても十分に通用するほどの指導力だ。

まずバクコン郡内の英語の先生、次いで州内の英語の先生全員に見せたい。中学の3年間、あのような英語の授業を受けた生徒は、英語が好きになり勉強するだろう。

ヴィッカ・アンシ郡教育長に、「リンダ先生はバクコン郡の宝だ！」と、郡教育局職員の方々に、郡内にあるこの2校(ランサイ中学・ビボケイ中学)の授業を見させて欲しい。「生徒によくわかる授業」とはどのようなものかわかっていただけたと思う。授業参観に行けるように手立てを考えて欲しいことなどをお願いした。

■ヴィッカ・アンシー郡教育長から

州教育長にランサイ中学を「全国優秀校」に推薦した。生徒が規律正しく、生徒と先生との垣根が無いのが良い。先生が授業に熱心だ。教育省が取り組んでいる「先生の指導力向上」の先を進んでいる。

ビボケイ中学の授業も見に行く。リンダ先生には、郡内の英語の先生の集まりで「生徒によくわかる英語の授業の仕方」を発表してもらおう。

■スホン州教育長から

教育省の全国優秀校候補に今年はアライン・ランサイ中学校を推薦した。来年はビボケイ中学を推薦したい。リンダ先生の英語の授業を見てから、「全国優秀教師」の推薦も考える」とのことでした。



特集「生徒によくわかる授業」の実際(スレイ・ビボケイ中学校の先生の授業)

「私たちは1時間の授業の中で生徒に分からせるようにしている！」

(先生の指導への意気込みが、授業に集中し積極的に発言する生徒の態度に現れている。)

■英語 中1 ソクン・リンダ先生

いきなり英語で授業を始める。1時間の授業中クメール語は使わない。

1)復唱させる。数字を書いたカード(1~10・20・30)を示し、先生は英語で質問して生徒に英語で答えさせる。次のカード(21・22・23~)を生徒に見せ、英語で質問して、生徒も英語で答える

2)door と書いた紙の上半分を隠して生徒に当てさせる。生徒は door、chair、などいろいろと答える。推測させて当てさせる。正解すると生徒とハイタッチする。生徒もうれしそう。次に発音、door の正しい発音を教える。ペンやえんぴつを見せて発音し、生徒に真似をさせて教える。次いでスペルを教える。PenとPemを書いて、生徒にも書かせて間違いに気づかせる。

3)is、what、that、this、? の単語を書いた5枚のカードを黒板に貼る(生徒は注目している)。ひとつひとつの単語を読んで生徒に復唱させる。カードを並べて What is this? の文を作り、先生が読み、生徒に復唱させる。鉛筆を持って、This is a pencil と生徒に教える。次にDoorを指さして、This is a door と生徒に答えさせる。

4)What is this? の答え方は It is a pen であることを教え、近くに有る物は this、離れた所に有る物は that と教える。

5)What is that? That の読み方と意味を教え、答え方は、It is a ...であることを教える。What is that? 疑問文の後ろには?クエスチョンマークを付けること。That is a table. 文章の後ろにはピリオドを付けることなどを教えて授業は終わった。

▼研究会「ソクン・リンダ先生の発表」

授業中は全ての指導を英語でした。中学1年生は11月の新学期から英語の勉強を始めたので、まだ英語の知識が無い。今日の授業では身近な教室の道具の名を英語でおぼえさせた。身近な道具を使って This is a pen、That is a pen、It is a pen を教えおぼえさせた。また、What is this? の疑問文と答え方を教えた。

この学校の生徒の英語のレベルに教科書の内容は合っていない。教科書の内容はむずかしすぎる。そこで生徒によくわかり、英語が楽しくなるように自分で計画を立てて教えている。授業中に教科書を使わないことが多い。自分で計画を立てて教えるにあたっては、校長に説明して許可を取った。

▼私は、次のようにして指導計画を立てている。

①1年~3年生までの教科書を熟読して、教えるべき内容を全て列挙した。②列挙した内容を学年別に優しいものから順にして指導計画を立てた。③年間指導計画を月別の指導計画、週の指導計画におろしている。④日々の授業については、前日に教える内容を確認して1時間の指導計画を立てている。1~3年生まで、授業は全て英語でやりたいので、1年生の時から聞く耳を育てて、理解させたい。

▼参観した先生の感想

□サーブン先生(国語)「先生と生徒の雰囲気自然で和やかで授業が進んでいった。先生の投げ掛けが明確で生徒の反応が凄く良い。私も真似をしたい。」 □ティンナツ先生(生物)「1時間全部を英語で授業したのが凄かった。たった3ヶ月しかたっていない1年生の反応が凄く良い。復習の時間が多いように思った。」 □キムリー先生(理科)「先生の声が大きくて生徒によく分かった授業だった。1年生なのに生徒は良く分かって答えていた。」 □ソマリー先生(数学)「生徒に正しい発音を真似させ、文章をおぼえさせて、さらに今日の授業で習ったことを英語で会話することが出来るようにしたことは凄い。私も見習いたい。」 □サヴォーン副校長は、「先生の英語での質問に、生徒も英語で答えたのには感心した。活気のある良い授業だった。」

▼住田の感想

授業中、先生も生徒も、英語だけで授業が進んだことは素晴らしい。感激した。このような授業を積み重ねていけば、生徒が2年生、3年生になった時は英会話出来るほどに英語力はついていこう。教科書の内容と生徒のレベルが合っていないことが他の教科でもある。生徒によくわかる授業、生徒のレベルに合った授業をしてほしい。そのためにはリンダ先生がやったように計画すれば「時間数が足りない、教科書が終わらない」という悩みもなくなるだろう。英語が良く理解出来ない生徒のために、ヒントになる数字カードや半分隠した単語を見せたことは大変良い。



研究報告をしたビボケイ中の先生たち



■理科 中3 リー・ティンナツ先生「地球の地殻の変動」

地球儀で、地球には陸地があり海があり山があることを知らせる。iPadでマグマの動画を見せ、地球の内部はどろどろと燃えていることをわからせる。手作りの「地表の圧縮・ひっぱり・断裂・隆起・陥没の図」があり、それを使って教えている。3つの質問を黒板に書いておいて、生徒に教科書を読ませる。(生徒には、赤黄緑の3色のカードを持たせている。)

質問①:地表が隆起したり圧縮されると何が出来ますか?

解答:山が出来ます。(生徒は、正しいと思ったら青カードを出す。)

質問②:地表が陥没したり引っ張られるとどうなりますか?

解答:低地や谷が出来ます。

質問③:地表が動かずにそのままどうなりますか? 解答:平らなままです。

生徒は教科書に書かれている事を答えている。最後のまとめでは、先生が3人掛けの机ごとに紙を配り、机ごとに、答えを書いて先生にだす。

▼参観した先生の感想

□サヴォーン副校長:良い授業だった。実際に見ることが出来ないマグマをiPadで見せたのもよかった。

▼研究会「リー・ティンナツ先生の発表」

写真とiPadを使って授業をした。iPadは授業の内容によって使っている。3色のカードは、師範学校で教えてもらった。生徒の理解度(青・良く分かった/黄・大体分かった/赤・分からない)を知るために使っている。今日の授業は青が多く、良く分かったと思う。まとめは、掲示してある自作図表を使って授業の大事なところを確認した。

▼住田の感想

ティンナツ先生は授業中笑顔で明るく声も大きくはっきりしているので生徒によくわかる。先生は事前の勉強をしているので授業態度に余裕がある。iPadの活用は、大変良い。教室に自作の地殻の変動図が貼って有り、良く勉強していることが分かる。今日の授業は、生徒1人1人に考えさせ、意見を発表させることが出来ていた。

■数学 中2 ライ・ソマリー先生「(X+5)(2X+1)の解き方」

生徒が日頃遊びに使っている表を黒板に貼り、表の中央部分のマスに(X+5)を書いた。(X+5)(2X+1)を、縦の長さ×横の長さという長方形の面積の求め方を使って教えた。練習問題を、生徒4人を前に出して黒板上で解かせる。宿題を3問出して終了。

▼業参観した先生の感想 □サヴォーン副校長:40人の生徒がよく理解できたと思う。カンボジア教育省の指導により、授業には決められた4つの内容がある。「1出席を取る、2復習をする、3展開、4まとめをする」なのだが今日は出席を取らなかったが、忘れてはいけないことだ。

▼研究会「ライ・ソマリー先生の発表」

工夫は、遊びに使っている表を使って教えた。生徒はよくわかったと思う。

▼住田の感想:遊びやり方を知らないで、解説できないが、生徒が日頃遊んでいる身近なことを授業に取り入れたことは素晴らしい。「a(b+c)」の計算は1年生で習っているので、それを基にして、2年生の(X+5)(2X+1)の計算を生徒に考えさせたら良い。自力で問題を解けた生徒は自信を持ち、数学が好きになる。練習問題の解答なども、生徒に黒板で説明もさせると良い。

■国語 中2 テック・サーブン先生「あやまること」

生徒1人に教科書を読ませる。次に生徒2人に会話文を分かれて読ませる。さらに生徒を4班に分け、それぞれに課題を与えて考えさせる。

1班:友だちに借りたノートを破いてしまった。2班:友だちが病気の為に、お見舞に行かなかった。3班:お祭りで、おばあさんにぶつかって怪我をさせてしまった。4班:友だちのシャツを破いてしまった。各班で話し合わせ、結果を2人の生徒が出て、実演する。

最後に先生が「失敗をすなおにあやまると、心のわだかまりが消えて幸せな気持ちになる。友だちとの友情が深まり団結力が増す」とまとめた。

▼研究会「テック・サーブン先生の発表」

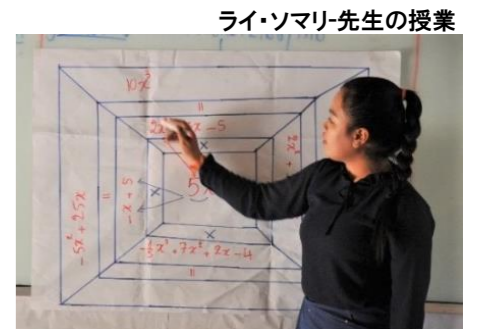
授業で教えたことは「反省して心からあやまること」「すみません」とあやまる心をもたせること。「あやまったことに対して、許す心をもつこと」です。生徒にわからせることが出来たと思います。

▼授業参観した先生の感想 □ライ・ソマリー先生:あやまる場面等、生徒の実演を授業の初めにやらせたらよいと思う。□サヴォーン副校長:あやまることを国語で教えることには道徳的な内容も持っている。□キムリー先生:指導案には教える内容だけでなく、単元の時間計画も書くことが必要だ。

▼住田の感想 指導案を書いて授業をした事は素晴らしい。先生が事前によく勉強していた事がわかる。しかし、道徳面だけでなく「出来事の原因やその時の感情、結果はどうなったか」などを発表させ、説明のしかたなどに焦点をあてると「国語」の授業らしくなり、生徒の「言葉への理解」も深まると思う。



リー・ティンナツ先生の授業



ライ・ソマリー先生の授業



テック・サーブン先生の授業